

出穂早まる予想！遅れず食味重視の穂肥対応を！ 穂肥の後は、間断かん水で根の活力を維持！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

◎ 生育概況

7月8日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は並となっています。

農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は全般的にやや早い～早い予想です。

平坦部「はえぬき」の生育（7月8日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	62.8 cm	55.7 cm	113 平年より長い
茎数	607 本/m ²	668 本/m ²	91 平年より少ない
葉数	10.6 枚	10.2 枚	0.4 平年よりやや多い
葉色 (SPAD)	43.0	43.0	0.0 平年並

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

予想出穂期（7月8日現在、農業総合研究センター調べ）

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期 [※]	平年差
はえぬき	山形市みのりが丘	8月2日	8月3日	-1日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月1日	-1日
雪若丸	山形市みのりが丘	8月1日	8月3日	-2日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月2日	-2日
つや姫	山形市みのりが丘	8月5日	8月8日	-3日
	鶴岡市藤島	8月5日	8月10日	-5日

※過去7か年（H27～R3）の平均値

◎当面の技術対策

7月7日発表の1か月予報（7月9日～8月8日）では、平年に比べ気温は高く、降水量は並か多い見込みとなっています。

高品質・良食味米を生産するために、高温や気象の変化に十分注意しながら、きめ細かな栽培管理を行いましょう。

（1）水管理の徹底 ～根の活力維持と低温対策～

穂肥施用後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）を行います。その後は間断かん水に移行し、土壌を酸化状態に保ちながら、根の活力を維持します。なお、今後も用水の効率的な利用に努めましよう。

低温に最も敏感な穂孕期（出穂14日前から7日前頃）に気温17℃以下が予想される場合には、15cm以上の深水管理を行い、不稔粒の発生を軽減します。冷害が起きやすい中山間・山間地域では、幼穂形成期の深水管理を積極的に実施ましよう。山間部等で水温が18℃以下と低い場合は被害を助長するので、水温の上昇を図る対策を行いましよう。

(2) 斑点米カメムシ類対策 ～草刈りを徹底！ 畦畔、法面、農道の雑草を確認！～

斑点米カメムシ類の発生が急増しています。畦畔、法面、農道、休耕田等で雑草が繁茂しているところでは、出穂2週間前頃までに地域全体で草刈り等の除草対策を徹底し、今後の斑点米カメムシ類の増殖を抑制しましょう。また、水田内のノビエやホタルイ等は主要な斑点米カメムシ類の一つの「アカスジカスミカメ」の産卵場所となり、発生源になるので、本田の残草対策も万全に行います。

(3) 葉いもち対策 ～早期発見・早期防除～

いもち病の感染に好適な気象条件となる日が多くなっていることに加え、葉色が濃い傾向にあることから、感染拡大が懸念されます。ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底します。

(4) 直播栽培 ～生育量に応じた穂肥～

直播栽培の「はえぬき」の穂肥は、出穂25日前(幼穂形成期)に窒素成分で1.5～2.0kg/10aが基本です。10葉期に㎡当たり茎数が700～750本で葉色が40以上の場合は、施用量を1.0kg/10a以下に減肥します。茎数750本以上で葉色が42以上の場合は追肥しません。

つや姫 の生育と技術対策

7月8日現在の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並、葉色はやや淡くなっています。なお、出穂期はやや早まる予想で、既に穂肥の散布時期に入っています。

直ちに生育診断を行い、品質・食味を優先し、窒素成分で1.0～1.5kg/10aを行います。なお、葉色が濃い場合は穂肥を控えます。

「つや姫」の生育(7月8日現在)

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	63.4 cm	54.7 cm	116 平年より長い
茎数	529 本/㎡	560 本/㎡	94 平年より少ない
葉数	10.1 枚	10.2 枚	-0.1 平年並
葉色 (SPAD)	39.9	41.2	-1.3 平年よりやや淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

農作業事故(重大事故)の発生件数が、例年よりも多くなっています。

農作業事故防止のための基本的な対策を再度確認し、徹底しましょう！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう！

農薬危害防止運動実施中